



## バリアフリー化は災害時にもやさしい

本校のバリアフリー化とトイレ洋式化工事が完了しました。校舎1階と体育館通路には、おむつ交換台が付いたウォッシュレットの多目的トイレも新設されました。車椅子の方が困らないように、正面玄関と体育館にはスロープが付けられました。トイレ自体も新しくきれいになりました。



4年生が総合的な学習の時間に「福祉」について学んでいるので、本校のバリアフリー化を教材に、学習を深めさせたいと思います。

東日本大震災の3か月後、私は、岩手県と宮城県の視察に入った経験があります。当時、磐田市教育委員会勤務だったので、学校の状況を確認するためでした。校舎の3階に船が突き刺さり、校舎の1階は流れ込んだ土砂の片付けが済んでいませんでした。校庭にはどこからか流れ着いた石碑が不自然な位置で傾いていました。ある学校は地震後の火災で全焼していました。被害の少なかった学校や公民館は避難所となり、高台にあった高校の運動場には住民の車が止められていました。大槌町教育委員会は、学校再開に向け、スクールバスで隣の山田町まで子どもたちの送り迎えの手配をしていました。

南海トラフ巨大地震が発生すれば、笠原小学校は、高台の避難所として機能することでしょう。今回のバリアフリー化の工事は、災害時にも役立つと実感しています。